

# 介護体験を



## 聞く会



ホームページ  
<http://www.yanagida-kaigo.co.jp/>

今月の介護体験の事例は、グループホームに入居して10年になる方で、誤嚥性肺炎による入院を契機に胃瘻造設を選択された方です。これをきっかけにして家族も協力関係をふかめ、長男さんは自ら痰の吸引などを勉強されました。グループホームの職員も交代で痰の吸引研修にいき、今後の利用者の重度化にも責任もつて対応できるようになるべく多くの職員が吸引や胃瘻について講習をうけています。

### 2月介護体験を聞く会

①事例検討 (胃瘻を造設したTさん(90代女性)について)

②デイケア・デイサービス家族相談会

#### 出席者

家族…藤田さん、吉川さん夫婦、柳澤さん、植草さん、菊池さん、武田さん夫婦、他事業所…飯島さん(しおん地域包括)、高橋さん(福祉用具)、斉藤(福祉用具)、新田(川崎中央はりきゆう院)

職員…院長、柳田CM、高橋、漆原、石川、長谷川、瀧口、厚川、高橋NS、古谷

#### ①事例検討

氏名…T・Sさん(92歳)

介護保険利用状況…要介護5、平成17年3月グループホーム旭町入居  
出身…福島県  
趣味…踊り、カラオケ  
性格…世話好き、社交的主介護者…グループホーム入居前は長男の嫁  
既往歴…脳梗塞、胆のう

会報第157号

平成27年3月28日発行

発行所…(有)明寿会

住所…川崎区中島1-13-3

電話044-233-0061

\*定例会は最終土曜日です。

(今年12月は19日)

炎、左足大腿骨頸部骨折  
現病歴…高血圧、糖尿病、  
脳血管性認知症、

\*胃瘻の造設までの経緯と対応

平成26年11月下旬より発熱が続くため、臨港病院を受診。検査の結果肺炎と診断され入院となる。

12月下旬ごろ、医師から「嚥下(飲み込み)の力が落ちてきており誤嚥の可能性が高く、経口摂取は難しい」との話があり、点滴か胃瘻の選択肢のうち、家族が胃瘻の造設を選ぶ。

家族はグループホームでの生活の継続を希望しており、要望をかなえるため、介護職員も痰吸引や胃瘻の注入ができるよう研修に行き、本人の通院が困難なため往診医を手配するなど受け入れ準備



### 全員で習字の時間

を整える。1月30日に退院。胃瘻からの栄養剤と水分の注入と、注入前の痰の吸引を職員が行い始める。9時と15時にリカバリー栄養液267gとpgウオーター243gを注入する。食欲はあるようなので、他の利用者の食事の時間には居室に戻っていたらいい。

2月18日に熱発し、往診医の診察を受け抗生物質を投与するが熱が下がらず、20日に臨港病院に入院となる。

脱水と高血糖の診断、血糖値の高いときにはイン

シュリンを投与している。

\*Tさんの息子さん

1月で92歳になり、グループホームでお世話になって10年になりました。母は自分が義母と同居していたころの気苦労を思っただけ「玄関と台所は別にしたい」と別棟に住んでいました。夫が亡くなってからぼけ始め、自転車で出かけて行って自転車を置いて帰ってきたり、一人で生活させるのが不安になっていたとき、グループホーム入居の話がありました。

胃瘻の受け入れは簡単ではなかったようだが、研修や往診の手配をして受け入れてくれてありがたかった。

\*GH職員…不安もあったが、勉強させていただけるといい意味でも良かった。早くお元気になるってホームに戻ってきていただきたい。

\*デイケア・デイサービス家族相談 Yさん…私も昨年退職した。家にいることで母



バイクをこいで足を鍛える

の役割を奪ってしまつたような気がする。認知症の診断はないが、物忘れなどが進んできてしまつている。

Yさん夫・夜トイレに起きて転倒してから、より注意するようにしている。「親戚のところに行った」と話すことがあつたが、その日はデイケアに行つていた日だった。

柳田CM..できることはご自分で、役割を持つてやっていた方がよい。洗い物でも、洗濯物たたみでも。

院長..認知症の原因で「廃用性委縮」も多い。昔なじみの作業をしても

らうのはいいこと。帰つてきても、どこに行つてきたか問い詰めるのではなく、本人の話聞いて受け止めた方がいい。

Nさん..最近姉とはあまり口をききません。自転車の鍵を預かつたら、階段を上り下りしている。それでも夜になつても寝ないから、睡眠薬も無意味だから飲ませてない。買い物に行くと同じものばかり買つてくるから、リンゴが100個くらい部屋にある。

Iさん..4月の改正にあたり、川崎市としても地域包括としてもいろいろ検討している。今まで以上に各事業所が個人や家族のために連携していく必要がある。

Tさん..福祉用具の会社としては対応に直接かわることはないけれど、話をきいて知識として身につけておく必要があると思ひました。

Sさん..地域として集まる場所ができてきている。リハビリ用具などを使つている方もおり、そういう方のアフターフォローからの交流も考えて

いる。  
Nさん..個人情報が多く回つていないと感じる。マツサーズに必要な情報を担当のケアマネにきいたら「個人情報だから教えられない」と断られた。  
自分の仕事を理解してもらわないと、連携の輪に加わつていけないのではないかと思う。  
(ディサービス古谷)

### 「介護研修を体験して」

①先日はお仕事中にも関わらず職場での体験学習をお引き受けくださつてありがとうございました。特に担当をしてくださつた高橋さんに改めて感謝いたします。

私はこの職場体験をして2つ得たものがあります。1つ目は利用者さんとの接し方です。ときさんやセツ子さんなどの利用者さんにやさしく声をかけたり、いろはかるたのクイズを出してあげたりと家庭的だと思ひました。2つ目は利用者さんのお話を聞いて昔のことをよく知れたことです。戦争

のことやお手玉のお話を聞いて興味を持ちました。印象に残つたのは胃ろうで昔より楽になつたことです。  
学校では得られない体験をさせていたきたいへん勉強になりました。今後のグループホーム旭町さんのご繁盛と高橋さんのご健康をお祈りさせていただきます。

富士見中学2年Sさん

②先日はお仕事中にも関わらず職場での体験学習をお引き受けくださりありがとうございました。介護施設は職員が清掃などをすべてやつているかと思ひましたが実際は利用者も協力してやつていたり職員と利用者みんなが暮らしを作つてるのだなと思ひました。

また胃ろうを見せていただき口から食べれない人は直接胃に入れていたり、体がまひしている人は2時間おきに体位を変えたり工夫していることがわかりました。  
私は将来医療関係の仕事に就きたいので勉強になりました。

今後のグループホーム旭町のみなさんのご健康をお祈りさせていただきます。

富士見中学2年Sさん

③先日はお仕事中にも関わらず職場での体験学習をお引き受けくださつてありがとうございました。特に担当をしてくださつた高橋さんに改めて感謝いたします。

利用者さんは職員のみならずとも仲が良く、明るく雰囲気が良いと思ひました。歌やお話し、ことわざが得意で昔の事をいろいろ学べました。

学校では得られない体験をさせていただき、たいへん勉強になりました。今後のグループホーム旭町さんのご繁盛と、高橋さんのご健康をお祈りさせていただきます。

富士見中学2年Oさん





「平成27年度介護報酬改定の改定率について」

知症高齢者になったとしても、「住み慣れた地域で自分らしい生活を続けられるようにする」という地域包括ケアシステムの基本的な考え方を実現する為、引き続き、在宅生活を支援する為のサービスの充実を図る。

★今後も増大する介護ニーズへの対応や質の高い介護サービスの確保する観点から、介護職員の安定的な確保を図るとともに、更なる資質向上への取り組みを推進する。

★介護保険制度の持続可能性を高め、より効果的かつ効率的なサービスを提供するため、必要なサービスを評価の適正化や規制緩和等を進める。

★地域包括ケアシステムの構築に向けて、今後、増大することが予測される医療ニーズを併せ持つ中重度の要介護者や認知症高齢者への対応として、引き続き、在宅生活を支援する為のサービスの充実を図る。

★特に24時間365日の在宅生活を定期巡回・随時対応型介護看護を始めたこととした包括報酬サービス

★中重度の要介護者や認め

スの更なる機能強化を図る。

★また、地域の拠点としての機能を發揮して中重度の要介護者の在宅での生活を支援する役割を果たす施設サービスについて、それぞれに求められる機能をさらに高めていく。地域で支えあつていくという考えのようです。

柳田居宅介護支援事業所 飯田

「川崎の少年事件に思う」

私たちは日頃、高齢者介護の仕事をしています。が、今回の出来事は人ごととは思えない。何しろ場所が近所であり、運動や桜見物などに施設利用者も近所の誰もが散歩したりする公園であり、川原であつたり、あの少年達が立ち寄ったコンビニも生活圏として住んでいるのです。まさか自分たのちの足もとであのような凶悪な事件が起きるとは誰も思いもよらなかった。しかし現実におきたことは事実ですし、当然その少年達も近所の中学校、高校の生徒だったことも

ショックでした。

近所の青少年の世界について私たち大人があまりにも知らなすぎたと考えさせられた事件でした。最近の名古屋でも女子大学生が「殺してみたかった」などとおぞましい言葉を実行に移したり、長崎で同級生を殺害した事件も記憶に新しい。学校教育や社会の青少年教育が問題があるのか、それを指導する政府や文部省が間違つているとしか思えません。同級生同士が共同生活をしていながら、まるで連帯や団結や有機的で人間的なつながりを作られていない。まるで自分と自分の家族だけが生きていけばいいと言いたげな世界を構成しているようです。一人一人が反発の磁気をおびた機械かブロックの寄せ集めの集団になつていて、自己中心、弱肉強食、他人蔑視などのイデオロギーが支配している。これでは日本民族とは言いがたない。お互いが銃で武装していることが唯一の帰属のシンボルであるとしてい

るどこかの国家と同じです。

マスコミや日本教育の頂点が「個人情報」だの「個性重視」などとキズナを破壊し、ともに日本を支え、進歩発展させた先人の歴史から遊離した架空の世界で論議し、宣伝し、教育しているのではないのでしょうか。もっとと老人から学び、歴史からまなび、有機的、人間的な関係を意識してつくりあげることではないでしょうか。私たちは高齢者施設で「もしもし体操」をはじめました。大事なことは他人をだしぬくことではなく、お互い一歩一歩忍耐強く歩み続けることです。ウサギではな

一緒に歌おう



く、亀になつて歴史を歩み続けることです。歌をうたいながら緑色や黄色のサラシを輪にして握り、お互いに送りあい、絆の感覚を大脳の集団脳のエリアに送り込むのです。

3月11日の東北大地震でも、先人はこれから先の海岸には津波が来るからと道祖神をたてていました。効率やもうけの目先の考えは先人からの継承を忘れ、ないがしろにし、後世に大きな惨劇をもたらした。私たちは生命財産をうしなしました。そればかりか壊れた原子炉は今後何代、何十代にもわたって苦痛を残すことになりました。今こそ日本人としての魂や誇りを思い出し、取り戻す時だと思えます。まず隗より始めよです。

(柳田)

## 「認知症と音楽との関わり」

デイケア利用のCさんについて今迄2回ほど紙面に登場させて頂きました。今回新たに発見がありましたのでお伝えし

たいと思います。

すでにご紹介のCさんですが、デイケアをご利用時に強い拒否があり、思うように指示が通らないことが多々あったと載せました。色々な試みをまわりを取り巻く家族、送り出しヘルパーと行ってきました。或る時はCさんが大工で活躍していたので墨壺(昔の大工さんが使用していた線引き用の道具)を御覧頂き、心の扉を開き、回想し笑顔を取り戻して頂いた事もあります。又酒好だったCさんに“ワンカップ大関”の入れ物を見せて心をなぐさめた事もありました。そのような内容の声かけ効果は断続的ながら今でも見られます。しかし或るとき画期的と思われるような出来事がありました。もともと音楽の好きなCさんはボランティアさんによる“民謡を聞こう”が大好きで、その際大きな口を開け、時には合の手を入られしていました。特に民謡はご自分でリクエした。このことから、来所

拒否が強く見られ、対応にまわりの人達がどうしたものかと考えている時、昔好きだった三橋美智也、三波春夫、村田英雄の話の思い出しました。家族の方にCさんは音楽が好きなのでテープをさしあげ、家でかけてあげて下さいと、以前より話しはしておりました。家族も時々かけているとの話でした。あるときちょうど来所拒否が強くあり、早速自宅からプレーヤを出して頂き三橋美智也の演歌をかけました。すると驚いた事に、今迄の上肢の震えもとまり、目も輝き、音楽と一緒に歌い出したではありませんか。

これには周囲の人達もビックリ仰天でした。まるつきり違った人格になったように見えました。少し間を置いて心を休め、車イスへの移動をすすめると自分でベットから起き上がり、車イスに移乗しました。昔、好きだった音楽、それこそ馴染みの音楽が心を奮いたたせ、心の平安を取り戻したのです。笑顔で涙すら浮かべさせる様な感動的な状況でした。回想法、音楽療法と色々ありましたが、いわゆる音楽療法という堅苦しいものではなく、その人の、ここではCさんの心の奥に潜んでいる馴染みの音楽こそが、音楽療法ではないかと考えました。Cさんの心の故郷(ふるさと)にスッと入って行く音楽こそ最良の音楽であり、歌ではないでしょうか。

勿論その後、送迎の車の中でも楽しそうに聞いていられたのは当然の事でした。音楽というひとつの心の支えが、こんなに強いものかと私自身びっくりしました。それから自宅での朝の準備の時も、ご家族が音楽をかけ、聴いていられるとの事でした。しかしいつもこのような状態とはいえませんが、音楽をかければいつでもこのように笑顔で来所するという訳にはいきません。しかしこれはCさんの一つの心の扉であると考えています。最近目が見えにくくなったCさん、目がかゆいと訴え、その不調が来所拒否につながっている場合もあるでしょう。

うし、体調の問題につながっている場合もあるでしょう。しかし耳はまだ充分聞こえます。まだ耳が聞こえている、又唄えるじゃない、まだまだ楽しいよ、と声かけすると笑顔になります。これからも色々な取り組みを考え、これからの人生をもっと前向きに楽しくさせてあげたいと思います。

デイケア室 瀧口

